

記帳、記録して経営に活かそう 《その4》

～ 分析 その2～



前回(2月)号は、経営の発展状況を把握するため、毎年作成している決算書を基にした分析方法について説明をしました。今月号も引き続き、単位(頭数、施設や草地の面積など)当たりの分析方法について説明します。

1 前提条件

- ・表1は、2か年の母牛飼養頭数と子牛出荷頭数です。ポイントは、R1からR2にかけて母牛飼養頭数と子牛出荷頭数が5頭ずつ増加したと仮定しています。
- ・表2と表3は、毎年決算申告のために作成されている2か年の貸借対照表と損益計算書です。
- ・表4は、母牛1頭当たりの金額です。
- ・なお、注目すべき数字を赤字にしています。

これらを例題として以下、経営分析方法を紹介します。

2 分析 ⇒ 母牛1頭当たりの金額で比較…スケールメリットが活かされているのか単位当たりで判断(表4)

規模拡大した場合に管理・生産能力(技術力)が伴っているのか判断が必要です。その場合には、母牛あるいは子牛1頭当たりでそれぞれの価格を算出することで、年ごとの比較が可能になります。今回は、母牛1頭当たりで分析してみます。

表1 経営頭数		
	R1	R2
母牛飼養頭数	10	15
子牛出荷頭数	5	10

表2 貸借対照表(単位:千円)		
	R1	R2
預金	1,000	1,000
固定資産	1,000	1,500
資産計	2,000	2,500
借入金	1,000	1,500
出資金	500	500
負債+資本計	1,500	2,000

表3 損益計算書(単位:千円)		
	R1	R2
子牛売上	3,000	5,000
雑収入	200	200
収入計	3,200	5,200
飼料費	1,000	1,500
授精料	100	300
診療費	200	300
費用小計	1,300	2,100
育成増益費	240	240
経費計	1,060	1,860
所得金額 ※1	2,140	3,340

表4 母牛1頭当たりの金額 (単位:千円/頭)			
(表4-1) 貸借対照表			
	R1	R2	備考
預金	100	67	①
固定資産	100	100	
資産計	200	167	
借入金	100	100	
出資金	50	33	
負債+資本計	150	133	
(表4-2) 損益計算書			
子牛売上	300	333	②
雑収入	20	13	
収入計	320	347	
飼料費	100	100	
授精料	10	20	③
診療費	20	20	
費用小計	130	140	
育成増益費	24	16	
経費計	106	124	
所得金額 ※1	214	223	④

※1 収入計-経費計

(1) 貸借対照表(表4-1)でR1と比較したR2の特記事項

ア. 預金①は、R1の100千円/頭からR2の67千円/頭と33千円/頭の減少

(2) 損益決算書(表4-2)でR1と比較したR2の特記事項

ア. 子牛売上②は、R1の300千円/頭からR2の333千円/頭と33千円/頭の増加

イ. 授精料③は、R1の10千円/頭からR2の20千円/頭と2倍に増加した。

ウ. 所得金額④は、R1の214千円/頭からR2の223千円/頭と9千円/頭の増加

(3) 考察…R2の生産能力は向上したか。

ア. 子牛売上②と所得金額④が増加したことから、R2の生産能力は向上したかに思えます。

イ. しかし、授精料③が2倍になっていることから、1回当たりの授精料が同じと仮定した場合、母牛1頭当たりの授精回数が増えていることが分かります。原因の1つとして、増頭により繁殖管理が疎かになったのでは、と疑われます。

ウ. さらに種付け回数の増加に伴い分娩間隔が延びるため、R3の子牛分娩頭数は減少する可能性があります。

エ. その結果、子牛出荷頭数が減少し、子牛売上も減少することが懸念されます。

オ. 従って、増頭によって管理・生産能力(技術力)は安定していないと考えられます。

上記分析で、繁殖が悪いという現状と、それに伴う懸念として子牛売上の減少が明確になりました。明確になったことで問題点の改善や場合によっては資金調達の準備を行うなど、経営改善に向けて対策を打つことができます。このように、しっかりと記帳し分析を行うことは、経営の危機回避と管理あるいは発展のための手助けになります。

4回にわたり、管理(生産)記帳と簿記記帳の大切さ、キャッシュフローでの管理と生活費の把握、さらに、記帳した帳簿を利用した分析方法について説明をしてきました。これを機に、我が経営も分析しようと思立った方は、普及センターにお問い合わせください。